

改善したが、アロマシンを再開すると、再度白血球の低下と肝機能障害を示した。この患者はこの後ホルモン療法を中止し、手術治療を行った。

15. 乳癌椎骨転移に経皮的椎体形成術を施行した一例

藤澤 知巳, 柳田 康弘, 木村 盛彦
(群馬県立がんセンター乳癌外科)
堀越 浩幸, 玉木 義雄 (同放射線科)

乳がんにおける骨転移は疼痛、骨折などにより著しくQOLを低下させる。今回我々は乳がん椎骨転移による圧迫骨折に対し、経皮的椎体形成術を施行し良好な経過を得た症例を経験したので報告する。【症 例】 52歳女性。1998年11月、局所進行乳がんに対し左乳房切除術を施行。1999年5月から胸壁局所再発、多発肝転移が出現。2004年3月、胸椎転移のため第12胸椎圧迫骨折による強度の腰痛により入院となる。全身治療とともに胸椎に対しCTガイド下に骨セメント約6mlを椎体内に注入し、経皮的椎体形成術を行った。疼痛が改善したため退院となる。【考 察】 乳がん椎骨転移による圧迫骨折に対して、疼痛の軽減、QOLの改善が得られ、経皮的椎体形成術は有効な治療法と考えられた。

16. 診断に難渋した術後8年目にびまん性、多発肝転移をきたした1例

池田 文広, 岡野 孝雄, 棚橋 美文
横江 隆夫 (渋川総合病院外科)

症例は61歳の女性。平成7年7月、左乳癌(T2aN0M0 stageII)に対して胸筋温存乳房切除術を施行した。病理診断は、硬癌、f, n0, ER(+), PgR(+)で、術後補助療法はミフロールを3年8ヶ月間内服し、タモキシフェンを5年間予定で投与した。平成11年8月、左前胸壁に皮膚転移が出現したが、全身検索では他に転移の所見はなかった。胸壁に50Gyの照射を行った後、MPA+5' DFURを開始した。平成13年2月、左前胸壁に皮膚転移が再燃したため、再度60 Gyの照射を行い、アフエマの内服を開始した。平成14年1月、それまで正常範囲であった腫瘍マーカー(CEA, CA 15-3)に上昇傾向が見られた。数回に渡りCT、骨シンチによる全身検索を行ったが、特定の転移病巣は同定できなかった。その後も腫瘍マーカーは上昇を続けたため、平成14年12月よりアリミデックスの内服を開始した。CA 15-3は一過性に下降したが、CEAは緩やかな上昇を続けていた。平成16年3月、腫瘍マーカーの急激な上昇と肝機能障害が出現したため、MRIを施行したところびまん性の多発肝転移をT2強調像で認めた。CTで描出不良な肝転移に対してMRIは有用な検査法であった。

セッション6

座長 井上 賢一

17. 演題取り消し

18. EC followed by taxol 療法が奏効した pagetoid cancer の1例

蓬原 一茂, 甲斐 敏弘, 住永 佳久
小西 文雄

(自治医大大宮医療センター外科)

山田 茂樹 (同病理部)

症例は50歳女性。2002年6月より右乳頭より膿性の分泌を認め、2003年1月より右乳頭の腫張、びらんを認めた。2003年6月近医受診し当院紹介となる。右乳房C領域に乳頭へ浸潤する径1.5cm大の乳癌(乳頭腺管癌)と腋窩・鎖骨上リンパ節の著明な腫大を認めた(T1cN1bM1a stage IV)。その他に遠隔転移はないが進行乳癌と判断しEC療法を施行した。著明なリンパ節の縮小を認めたが腫瘍の大きさはほとんど変化がなかった。さらに続けてbiweekly taxol療法を施行した結果、右乳房腫瘍は画像上消失し、リンパ節腫張もほとんど消失した。手術は希望されず放射線療法を施行し現在通院中である。著明なリンパ節転移を伴い進行したpagetoid cancerに対しEC followed by taxol療法を施行し臨床的にCRまで奏効した1例を経験したので報告する。

19. 再発乳癌に対するCapecitabine使用症例の検討

瀧澤 淳, 小島 誠人, 井上 克彦
山口 真彦 (独協医大越谷病院外科)
川島 実穂, 野崎美和子 (同放射線科)

経口フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤であるCapecitabineは、アントラサイクリン系やタキサン系抗悪性腫瘍剤に抵抗性の再発乳癌に対しても有用であることが知られているが、2003年6月の日本での発売後、当科においても同年8月より採用し再発乳癌患者に使用している。今回我々は、当科における再発乳癌に対するCapecitabine使用症例を検討した。対象は再発乳癌患者16例。投与方法はCapecitabine単独使用症例が4例、taxane系薬剤との併用症例が12例、また既治療を有する症例は9例であった。効果は16例中6例のPRが得られ奏効率は37.5%であった。投与方法別では、単独群が50%、併用群が33%であった。副作用については手足症候群を7例(Grade1: 4例, Grade2: 3例)に認めたが、その他の重篤な副作用は認めなかった。

今回我々は再発乳癌に対してCapecitabine使用症例を検討し、そのうち有効症例を供覧するが、重篤な副作用も認めず再発乳癌に対して有効であることが示唆された。